

ざらむかぎりは、心にまかせてまかわたくしにすべき物にはあらず、まことに其姓にはあらずとも、中ごろの先祖、もしはおほぢ父の世よりなりのり來てあらんは、なほさても有べきを、おのがあらたに物せんことは、いとくあるまじきわざになむ、姓えられざらんには、たゞ苗字をなおりてあらんに、なでふことかはあらん、すべて古をこのまむからに、よるづをあながちに古めかさむとかまふるは、中々にいにしへのこゝろにはあらざるものをや、

〔秋苑日涉〕姓氏

至近世、二字若三四字氏族、皆省爲一字、其字不雅馴者、取偏旁若通音字、易之、藤原氏也、省曰藤、安藤、齋藤、遠藤、近藤、族也、皆省曰藤、又省曰藤、源流不辨、婚姻何別、中略自允恭天皇時、嘗正姓氏之濫、以分疏涇渭、歷世革弊防姦、或定八等姓、或釐三部氏、弘仁中、區別皇胤臣族、詳見姓氏錄、百官系譜、舉藏之圖書、寮若網之在網、有條而不紊焉、中世禁廢防弛、氏族之濫、亦已甚矣、且有違諱避仇、隨母假養寄冒之類、紛然無復可考、至今日、雖有明物察倫之主、恐無如之何而已、

〔隨意錄〕儒生及書畫之生、不稱其父祖之姓氏、而好稱不可知之姓者、徃々有焉、甚則稱劉及諸葛者、有之、我方豈有此姓乎、書家某、初稱源姓、後又稱平姓、可笑矣哉、

〔番外雜書解題附錄五撰者小傳〕澤田鱗、字は文龍、東江と號す、通稱は文藏、本姓は源、はじめは平林氏を稱す、東江が落款に、平鱗ともあるは、この故なり、又玉島山人といへり、書を以て鳴る、寛政八年丙辰八月十五日歿す、

〔衝口發〕姓氏

國朝諸姓、其元三韓ノ官名、及其言語ニ出ルモノ多シ、此亦上古此邦ニテモ、韓ノ官職ヲ用ルノ一證トスベシ、天智帝御宇、唐風ヲ以、韓制ヲ止メ玉ヒテ、其事傳ラズ、天武帝御宇、萬姓ヲ改メ混ジ玉シトキ、文字ヲカヘラレ、今ノ如クナリタリトミユ、今諸書ニ散見スルモノ一二ヲ舉グ、尙博古ノ